

日本鉄鋼協会記事

理事會

第5回理事会 開催日：12月20日。出席者：荒木会長ほか 39名。

1) 名誉会員推挙の件

イギリスのメタルスソサエティー会長カーレンフェルス氏を来春名誉会員に推挙し、湯川コロキーに出席してもらう予定。また中国金属学会から数名の来日が予想されその代表者を名誉会員に推挙することを決定した。

2) 協会刊行物の著作権設定について

最近本会の出版物においても著作権の侵害された例が2, 3出てきており、今後、国内外を問わず著作権侵害に関する問題は増大するものと思われ、編集委員会において著作権を本会に帰属させることを前提に検討してきた。4月の通常総会に諮り、8月1日以降発行の著作物に対し適用する。

企画委員会

第5回委員会 開催日：12月18日。出席者：細木委員長、ほか 22名。

1) クリープ委員会の名称変更及び規程改正の件

55年度よりクリープ委員会の業務拡充を行いたい。名称変更及び規程の改正案について事務局より説明があった。名称変更については了承されたが、規程については庶務分科会で検討願うことになった。

2) 昭和55年度収支予算案の件

第4, 5回委員会で検討を重ねた結果、収入700,423千円に対し、支出736,605千円で維持会員の増36,182千円におさえた二次予算案を作成し、理事会に諮ることになった。

編集委員会

第6回編集運営委員会 開催日：1月11日。出席者：田中委員長、ほか 16名。

昭和55年度依論文賞の候補として31件の論文があり、各論文に対して5名の査読者を決定した。

第100回講演大会の記念行事案が報告され、承認された。

第11回和文会誌分科会 開催日：1月11日。出席者：田中主査、ほか 22名。

1. 15件の論文審査報告がなされ、掲載決定11件、修正依頼1件、照会后掲載可1件、その他2件であった。

2. 「鉄と鋼」第66年第6号(5月号)に論文13件、技術報告1件、技術資料1件、その他2件、掲載決定した。

第11回欧文会誌分科会 開催日：1月17日。出席者：中村幹事、ほか 10名。

1. 23件の論文について審査報告がなされ、掲載可7件、照会后掲載可7件、修正依頼7件、一旦返却2件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より、6件の研究論文を勧誘することとなった。

標準化委員会

第85回幹事会 開催日：11月29日。出席者：荒木委員長、ほか 12名。

1. 各分科会の進捗状況の報告
2. 工業技術院の本年度業務報告
3. 55年度JIS新規改正要望について
4. 工業標準化法の改正について
5. 鉄鋼協会規格のあり方について

鋼材の外観・形状欠陥用語を規格以外の位置付け(標準、マニュアル、基準、指針など)とすることについて検討した。

ISO鉄鋼部会

第39回SC1分科会 開催日：11月15日。出席者：川村主査、ほか 8名。

1. 主査交替
2. 第38回会議以降の経過説明
3. ISO/TC17事務局の田中所長より、SC1幹事国引受け質問状に対する中間集計結果の報告があった。
4. TC17/SC1幹事国引受けに関する日本見解について日本が幹事国を引き受けざるを得ないようであるが現時点では“保留”とし、上層部の意見を打診することになった。
5. 今後の進め方としては、第38回会議以降3か年間のプランクを埋めるため、各成分ごとにこれまでの審議経過を取りまとめることにする。なお、これらの調査結果は12月末まで一定の形式で幹事宛報告してもらうことになった。

第4回SC2分科会 開催日：11月21日。出席者：吉田主査、ほか 15名。

1. 水野幹事から輸出専門部会答申の内容の紹介と、11月8日開催のCCCN検討委員会主査会議の概要の説明があった。
2. 鋼種区分について。輸出専門部会武末案及びCCCN検討委員会室積案を紹介し、討議が行われた。
3. 資料により、元素ごとに問題点、技術的な理由について検討を行った。
4. 調査統計専門部会からの質問状。鉄連統計部鈴木次長から、資料No. 4-2に基づき質問の主旨の説明があり、検討した。

第5回SC2分科会 開催日：11月28日。出席者：吉田主査、ほか 14名。

1. Al, B, Cr, Co, Mn, Mo, Ni, Nb, Si, Tiの各元素について検討が行われた。
2. 調査統計専門部会への回答
 - (1) 銑鉄
 - (2) 粒と粉
 - (3) 補強棒鋼

- (4) 非合金快削鋼
- (5) エンジニアリング鋼の棒
- (6) ステンレス鋼又は耐熱鋼
- (7) 高速度鋼
- (8) 不定形工具鋼
- (9) 棒鋼

以上について、それぞれ討議を行い統一見解をまとめた。

第6回 SC2 分科会 開催日：12月6日。出席者：吉田主査，ほか 11 名。

1. 事務局から示された「各元素の理由」と、川崎製鉄作成の「Ni 含有量の限界」の二つの資料に基づき、Ni, Mo, Ti, Si について、含有率改訂の理由付けの是非を討議した。

2. 鋼種区分については、Fine Steel の定義が不明確なため現行 CCCN を主張することにした。

第14回 SC7 分科会 開催日：11月13日。出席者：石山主査，ほか 11 名。

1. 第9回国際会議出席報告。SC7の動き及び今後の計画について説明があつた。

2. N252 (工具鋼及び軸受鋼の炭化物分布測定方法) の検討。検討の結果、回答期限の12月末日までには、多少の余裕があるので、コメント案を事務局で作成し、各委員に送付し意見をうかがつた後、SC7事務局に提出することになった。

第11回 TC164 分科会 開催日：11月27日。出席者：川田主査，ほか 16 名。

1. TC164/SC3 関係、ISO/TC164/SC3N174, 177, 178, 127, 176 について計量研究所の樋田案をもとに討議し、日本コメント案を作成した。

2. TC164/SC1 関係、ISO/TC164/SC1E28 コメント案について、試験機工業会の桑島氏から説明があり、討議された。この論議をもとに、試験機工業会に再検討

を依頼した。

3. 次回は12月14日とし、国際会議の出席者の人選も行うことにした。

第32回鋼質判定試験方法分科会 開催日：11月13日
出席者：石川主査，ほか 13 名。

1. 鋼の火花試験方法並びに鋼のサルファプリント試験方法の改正原案作成の審議経過報告があつた。

2. 顕微鏡試験方法・非金属介在物試験方法・結晶粒度試験方法についてのアンケートをもとに、JIS と ISO の整合に関して検討した。

第3回硬さ試験方法 JIS 原案作成分科会

開催日：11月27日。出席者：川田主査，ほか 22 名。

ロックウェル硬さ試験方法(案)を逐条審議した。特に、ロックウェル硬さ(A, B, C, E, F, G, H スケール)とロックウェルスーパーフィシャル硬さ(N, T スケール)を統合することが承認された。

鉄鋼標準試料委員会

第54/V 回常任委員会 開催日：12月18日。出席者：川村委員長，ほか 13 名。

1. 標準値の決定

ハマスレー銦鉱石の Al_2O_3 の標準値を決定した。

2. マンガン鉱石の再分析

再分析要領に従って再分析を実施することになった。

3. 高純度鉄の製造について

WG会合での結果について説明があり、了承された。

4. 常任委員会の業務分担についての検討。

5. 細則改定についての検討

書 評

De Ferri Metallographia V

— Fractography and Microfractography —

G. Henry and D. Horstmann

(Verlag Stahleisen m. b. H. (1979), A4 判, 445ページ)

鉄鋼材料の組織写真集として、すでにその高い評価の確定している、De Ferri Metallographia の第V巻が出版された。この巻も前の4巻と比べて勝るとも劣ることのないすばらしい写真集となつている。

第V巻はその副題の示すように、主に鉄鋼材料の典型的な破面を例にあげて、フラクトグラフィーを解説したもので、前の4巻までと同様に解説は独英仏の三ヶ国語で併記されている。本文は164ページ、写真138ページ(1ページ平均6葉の写真)である。

本文は「破壊機構」「破面形態に及ぼす荷重型式の影響」「破面形態に及ぼす微細組織の影響」「フラクトグラフィーの事故解析への適用」からなっており、写真の説明を中心としたフラクトグラフィーの手際のよい解説となつている。多くの場合、マクロ写真とマイクロフラクトグラフが対比して示されており、断面の組織写真も示されている。写真が非常に鮮明で、人を引き付けてやまないのは紙質がよいためばかりでなく、著者の努力に負うところが大きい。

このような特徴をもつ本書は、破壊現象に関心を有する研究者ばかりではなく、材料の評価および破壊事故解析に携わる素材メーカー、ユーザー、ファブリケイターにおける技術者の必読の書といえよう。(M. K.)